

外飲みから家庭の真ん中に

きっかけの種 @ 一番搾りコミュニティ

「一番搾り」で特別感演出、健康も意識

産経新聞社がインターネット上で運営する「ファンコミュニティ「きっかけ」内のパートナーコミュニティの一つ「一番搾りコミュニティ」は、今年1月中旬にオープンし、国民的ビールブランド「一番搾り」の魅力を語り合っていることができる場となった。既に1万5千件以上のコ

メントが寄せられ、にぎわいをみせている。新型コロナウイルス禍で家飲み派も増えるなか、「一番搾り」はどう受け入れられているのか。「コミュニティ内のコメントを分析すると、家庭内コミュニケーションを円滑にする象徴となっている様子も浮かびあがってきた。

コミュニティでは、オープン直後から家飲みシーンを表す投稿が活発に交わされた。家庭料理と「一番搾り」が並んだ写真の投稿も多く、「夫婦ともずっと一番搾りが大好きです。でもビールは高価なので、子育て世代の私たちにはたまのご褒美」「ホテラにカレールーをまぶして福神漬けをトッピング。居酒屋風に一番搾りを楽しんでいます。など、家庭で過ごす時間に「一番搾り」がだんらんや彩りをもたらしている様子もあがえる。

分析してみえてきたのは「家庭」「特別感」「健康」といったキーワードだ。コロナ禍だからのせいで、ちょっとした特別感を自宅で味わいたいという機運も相まって、少し高級なおつまみを用意したり、ペランダで飲む「種」を発射し、いつでも趣向を

変えて特別感を演出しようとする様子も見受けられる。昨今はビールより安価な発泡酒なども多数発売されているが、「一番搾り」は、おつまみと併せてアテご褒美や、ちょっとした特別感を演出したい日にぴったりの役目を担っているようだ。

また、もう一つの特徴として、外出機会が減り、運動量が減っていることもあり、健康意識の高まりを感じさせるコメントも数多く投稿された。「今日はいっぱい仕事したけど、全く歩いてないので、糖質ゼロにしますね」「今日は白焼のたろ(ろ)と発売された「一番搾り」を買って「一番搾り」をチョイスしたという報告や、ヘルシーなおつまみをユーザー同士で教え合う様子も見受けられる。

コロナ禍は収束の兆しはまだみえないが、「一番搾り」や同コミュニティは、健康感のある日常における「親の発射剤」となっている。今後もちょっと良し目を記憶し、共感し合うための役割を果たしていきたいものだ。



家庭料理と「一番搾り」が並んだ写真の投稿例

す。